



羽村市立栄小学校

学校だより No.6

<9月号>

## 「命の尊さ」を胸に、ともに歩む二学期

校長 杉森 祥吾

始めに、夏季休業期間中に発生した「令和8年熊本地震」、並びに「令和8年8月千葉豪雨」により、お亡くなりになられた多くの方々に深く哀悼の意を表すとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。今なお不自由で不安な日々を送られている方々の安全と、一日も早い復興を、教職員一同、心より願っております。改めて、尊い命の重みを噛みしめながら、今学期も安全を常に意識した学校運営に努めて参ります。

大きな自然災害の報に心が痛む夏となりましたが、子供たちが元気に二学期のスタートを迎えられたことを大変嬉しく思います。ご家庭をはじめ、PTA の皆様、そして、町内会、青少年対策栄小地区委員会等、地域の皆様の温かい見守りのおかげです。子供たちのためにご協力くださったすべての方々に、深く感謝申し上げます。

さて、二学期は一年の中で最も長く、気候も比較的穏やかで、学習や運動にじっくりと取り組める実り多き季節です。運動会や校外学習、展覧会など、仲間と力を合わせて創り上げる行事も数多く予定されています。これらの取組は、子供たちが生きていく中で必要となる様々な力を身に付ける大変貴重な機会となります。また、子供たち一人一人が自分にあった目標をもち、達成感を味わってほしいと願っています。私は、二学期の始業式でこの話をしたのですが、その実現に向けたキーワードとして示したのが、まさに冒頭にも掲げた“命の尊さについて考える”ということです。「今、私たちは生きている。」このこと自体が本当にかげがえのないものであること、そして、「自分の命」は無限の可能性を秘めた素晴らしいものだということを伝えました。「命の尊さ」について深く考えることは、「この困難な場面を乗り越えたい」、「この友達を何とか助けたい」という子供たちの純粋で前向きな思いを支える柱になると私は考えます。そして、「命の尊さ」を意識しながら身に付けた力は、“心から溢れ出る本物の資質・能力”となり、子供たちが未来を切り開く大きな力になると信じています。今後も、すべての人の命を大切にしながら、失敗を恐れず挑戦し、困ったときは助け合える、そんな子供たちを育成できる学校を目指していきます。

二学期も、教職員一丸となって教育活動に取り組んでまいります。保護者、地域の皆様におかれましては、変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。